

令和元年度 第2回 小野申人といきいきトーク

と き	令和元年2月4日(火) 19時~20時30分
と ころ	府中市役所
テ ー マ	これからの府中市の子育て支援について
出席者	リョービ保育園・たんぼぼ園保育所保護者8名 市長、唐川健康福祉部長、荻野教育部長、 山田女性こども課長、門田学校教育課長

今、府中市でも子育て・教育の点については、重点施策の一つとして挙げさせていただき、進めているわけだが、そうした中、まさに子育てをしている皆さんの意見を聞きながら、今後の府中市政にも取り組んでいきたいと思っている。

市

《府中市を見て》

- ・ 小中一貫校など教育に力をすごく入れている。
- ・ 緑が多く、自然が豊かでいい。
- ・ 待機児童がいなくてうらやましいと言われる反面、府中市には大学がないので、行かせると府中から出ていくことになる。小さいときはいいけど、大きくなったら困るよねと言われる。

大学はないが、府中市には県立高校が3校あり、それぞれの特色がある。府中市では、幼稚園・保育所と小学校の連携、小学校から中学校への連携、中学校と高校も連携する中、大学を目指す子には、目指せるような環境づくりをしている。大学が近くにあるというのも一つの選択肢だと思うが、高校まで地元でしっかり学べるようしっかりサポートしていこうと思っている。

市

《医療》

- ・ 夜間に行ける病院が府中にはない。急に子どもに熱が出ても福山まで行かなければならない。福山と同じように10時か11時までみてもらえる緊急病院が必要。
- ・ 府中市民病院の小児科に固定の先生をつけてほしい。
- ・ 駅家町にあるようなファミリークリニックがあればいい。子どもが病気になると家族もなる。一緒にみてもらえるのがいい。

小児科の問題は切実。市としても小児科の先生に来ていただくため、一生懸命がんばっているところ。小児科の先生が来てくだされば、補助金を出すようにしている。

春から僻地医療にかかわっておられた先生に来ていただく。科目を問わずみていただける方。緊急で小児科を内科の先生がみられないと言われたのは、処置を誤ってはいけないと随分思われているよう。いろいろな経験をされている方であれば、ひどい症状で

市

なければ、福山に行く前に、何らかの処置で済むのであれば、そういった処置をしていただけないか、そのあたりも相談をしながら頑張っていく。

市

《子育て支援》

- ・ 保健師が産後から寄り添ってくれ、子育てについて心のことも支えてもらい、今でもその保健師と健診で会うと話しをして安心する。
- ・ 生後6か月など母親の睡眠時間がないときなので、1時間でも2時間でも1人の時間が欲しいときに預かってくれるところがあればいいと感じていた。

ポムポムでは、6か月の子どもからみている。また、子育てステーションが府中天満屋でオープンしたときには、短時間でも預らせていただきたいと思います。現在、子育てステーションで行っている産後ヨガ教室では、お母さんがヨガをしている間、ボランティアや保育士が少し離れたところで子どもさんをみさせていただいている。今後こういったお母さんがリフレッシュでき、お母さん同士がつながる場を増やしていきたいと考えている。上下町では、健診や子育て相談の後1、2時間でお茶会のようなものを考え、始めているところです。

女
課

《放課後児童クラブ》

- ・ 保育所では18時30分までみてくれていたが、放課後児童クラブは、18時15分までなので、後15分みてもらえるとありがたい。

放課後児童クラブの経緯を言えば、始まったときは17時までだったが。保護者の要望を聞く中で、段階的に伸ばしてはきている。引き続き考えていく。

市

《ポムポム・木育・公園》

- ・ 府中で作られた積み木を買おうと調べたが、他の木育が盛んな地域の積み木はもっといろいろな種類がある。また、ポムポムと同じように東京おもちゃ美術館と提携している三次の森のポッケの方が、おもちゃがたくさんあり、好きな人には遊ばせたいものが多い。ポムポムにももっと積み木を置いてほしい。
- ・ 以前は、ポムの前に公園があった。今はないが、また公園ができると聞いた。
- ・ 子どもがポムポムの水辺が好きで、よく遊ばせていた。平成30年の豪雨災害から魚も減って寂しくなった。公園を作るときには、魚を獲ったり、虫が見られるような環境を残してほしい。

ポムポムの公園を作る計画があり、水辺と合わせて考えている。はっきりしたことは言えないが、2、3年の内には作りたい。どのような公園にしていくか、声を聞かせていただくことがあるかと思う。

市

《男性の育休》

- ・ 市にある職場で、どれくらいの男性が育休を取っているのか。友だちのご主人の会社

には、制度さえないと聞いた。

数字まではつかんでいないが、総務大臣から育休の取得を市としても取り組むよう通達があったところ。実際、市役所の男性職員はほとんど取得していない。働き方改革も含め、市も自ら取得するようにする。育休を取るためにどうしなければいけないかを考える。また、市内企業の方にも理解をしてもらい、一緒に取り組み進めたい。現状は、非常に少ない。

市

《小学校、地域、コミュニティ・スクール》

- ・ TTCアリーナに行ったとき、南小学校の高学年の生徒がよく挨拶をしてくれた。
- ・ 子どもが南小学校に通っているが、地域の人が見守ってくれていると感じる。私の知らないおじいちゃんやおばあちゃんが、学校の帰りを見守ってくれていて、子どもの方が地域の人を知っている。子どものおかげで町内の人と仲良くなる機会が増え、ありがたい。子どもが小さいときは、孤独に感じることもあるので、小学校に上がるまでの間にも地域の人と関わりができれば、より安心できる。
- ・ 小学校の子が学校に行けたり行けなかったりしていたが、先生が家に来られ、話を聞いていただくことで学校に行くようになった。先生からスクールカウンセラーがときどき来られていると聞いたが、来られる回数を増やしてもらえないか。

スクールカウンセラーは、今年初めて広島県教育委員会が、巡回ではあるが全ての小・中学校に対応できるような仕組みを整えたもの。学校（生徒の人数）によって回数は異なるが、担任の先生や校長先生に相談して、対応する仕組みになっている。

また、不登校の生徒や福祉面を支援できるような、スクールソーシャルワーカーという専門職員を市独自で採用している。今までなかった制度を導入し、広げてきた。予算的な面や専門家が養成されていないなど、一気に増やすことは難しいが、この声をきちんと受け止め、これからも進めていく。保護者からの「必要」という声がある。

学課

女性子ども課にも公認心理師が、毎日ではないが、1名いて、保健師も併せて相談にのっている。府中市では、小学校以降も相談を受けている。心のケアや子どもの状態を知りたいということであれば、女性子ども課も利用できるし、今後は、保育士や保健師のスキルを上げ、子育てステーションでも相談にのれるような体制をつくっていきたい。

女課

- ・ 小学校の登下校に30分以上かかる。行きは、地域の方の見守りと保護者が1人付き添っているのが安全だが、帰りは放課後児童クラブに預けていない子どもは30分かけて帰っている。学校の帰りだけでもぐるっとバスの通学の許可を出してもらえれば安心できる。

ぐるっとバスの活用については、いろいろな声が出ている。通学バスにするかしないかは別として、バス全体の活用として、交通網の計画の中でそういった意見も反映していきたい。

市

《療育機関とインクルーシブ教育》

- ・ 府中市は療育機関が少なく、病院も発達検査も全て福山市になる。小学生になる前の検査は、予約を取るだけで1年くらいかかる。療育の施設もいっぱい、毎日行きたいが、併用しているのが現状。保育所の中にそういう施設があり、子どもが毎日同じところに行けるのが理想。
- ・ 障害のあるなしに関わらず、多様な子どもが共に教育を受けることができるインクルーシブ教育ができればいい。府中市でそういった教育をしてくれたらと思う。

療育の施設と保育所の並行通所をしている人も多くいる。保育所の中で専門的なことをしてほしいという希望を受け止め、市の保育士も、去年は1名、今年は2名、専門的な療育の施設の人が受けるような研修に行き勉強をしている。言われるように、多様性、いろんなことを認め合うことはこれからの社会で生きていく中で大切だと保育所でも認識している。そういった中で、今年度保育所では初めてLGBTの職員研修会もした。性に関する違和感というのは、早い時期から出ているので、子ども自身が分からない違和感を、保育士たちが気付く力が必要な時代にきている。すぐには上手くいかないが、意識を持ってしている。

市

学校では、通級指導教室というのを3年前につくり、普段は通常学級で学びながら、例えば、漢字であったり、感情のコントロールであったり、その1点を取り出して、指導して、また教室に帰るといったバリエーションを広げている。一人で生きていく力をつけていくための授業として、指導計画を一人一人に立て実施していくというのが今の状況。また、授業をサポートする特別支援教育の支援員を全校に配置できている。これは、府中市独自の採用でしているもの。

学課

- ・ 小学校に行き始めて大変だったとき、小学校のカウンセリングや市役所に行くのは、敷居が高く、少しラフに相談できる場所があればと思った。資格がなくても、情報がある人、例えば少し上の子どもがいるお母さんとかと話せる場所があればと思った。

来年の春から、府中天満屋の2階に子育てステーションを移転する。その中に子どもの遊び広場をつくり、その隣に気軽に寄っていただける相談窓口を作りたいと考えている。

今日に限らず何かあれば、園長先生を通してでも、直接女性子ども課に言ってもらっても結構なので、またご意見を聞かせてもらえれば。

市